

# 小山市立博物館 博物館だより

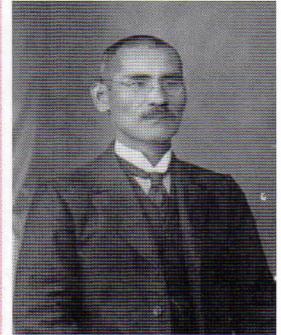
2018  
3.15 66

『開運のまち おやま』デスティネーションキャンペーン事業  
小山市立博物館開館35周年記念 第70回企画展

## 碓井 要作

—田中正造とともに歩んだ蚕種家—

平成30年3月31日(土)～5月27日(日)



碓井要作写真(当館蔵 新収蔵資料)



養蚕図 三代広重画(栃木県立博物館蔵)

碓井要作は、明治4年(1871)、現在の小山市下生井しもなまいに生まれました。当時の生井村は蚕の卵を生産する蚕種業が盛んな村で、碓井家も蚕種を営んでいました。要作は、下都賀郡蚕種同業組合の初代組合長を務めるなど、蚕種業の発展に奔走した人物です。

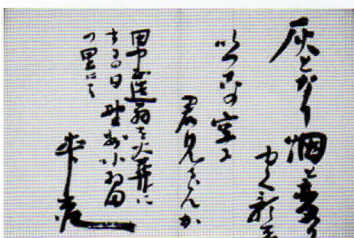
一方で、要作は明治40年(1907)に栃木県会議員となり、田中正造とともに河川改修問題や谷中廃村問題へ情熱を傾けました。要作と正造は多数の手紙をやりとりしており、正造の死去に際しては要作が分骨葬儀を執行など親交の深さが窺われます。本展示会では、数々の田中正造関係資料とともに、市内で保存されてきた田中正造書簡なども初展示します。

また、田中正造との関係で注目されることが多い碓井要作ですが、雅号を「石泉」として、すばらしい漢詩をつくる人物としても評価されています。要作の漢詩作品や、田中正造・木下尚江ら直筆の揮毫集もぜひご覧ください。

- 【入館料】大人200(100)円、大学・高校生100(50)円、小・中学生無料  
※( )内団体料金・おやまミュージアム割引実施(車屋美術館入館券半券提示で団体料金)
- 【無料開館日】5月4日(金)、5日(土)、18日(金)
- 【休館日】4月2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、27日(金)  
5月1日(火)、7日(月)、14日(月)、21日(月)、25日(金)
- 【講演会】いずれも電話申し込み。定員40名 ☎45-5331
  - ①4月15日(日)13:30～15:00「近代小山の蚕糸業」  
講師:小川聖氏(小山市文化財保護審議委員・元当館学芸員)
  - ②4月29日(日)13:00～15:00「漢詩とは—要作の漢詩を踏まえて考える」  
講師:塚越義幸氏(國學院大學栃木短期大学教授)
  - ③5月12日(土)13:30～15:00「碓井要作と田中正造」  
講師:大嶽浩良氏(元栃木県歴史文化研究会常任委員長)



河川調査中の田中正造と碓井要作  
(佐野市郷土博物館写真提供)



田中正造の死を悼む木下尚江揮毫(当館蔵)

★期間中、エントランスホールにて  
渡良瀬遊水地の生き物を特別展示します

## ラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」登録5周年記念関連講座を終えて

渡良瀬遊水地は、本州以南で最大の湿地であり数多くの貴重な動植物が生息・生育していることから、国際的に重要な湿地であることが認められ、2012年（平成24年）ラムサール条約湿地に登録されました。また、渡良瀬遊水地は、思川や渡良瀬川など周辺から数々の川が流れ込み、治水と利水の機能も担う重要な場所となっています。

2017年（平成29年）は、渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されてから5周年にあたり、それを記念して、様々な関連事業を実施しました。第69回企画展「古代の製鉄遺跡群－渡良瀬遊水地周辺の大地に刻まれた歴史を探る－」では、渡良瀬遊水地周辺部の製鉄遺跡群を紹介しました。下野・下総のクニザカイ周辺の地理的・歴史的特徴を概観し、平将門や藤原秀衡ら、名だたるツワモノたちが登場した背景を探りました。

実施した講座には合計200名以上の方にご参加いただき、小山市が世界に誇る『渡良瀬遊水地』やその周辺の自然と歴史的価値を再認識する一つの機会としていただけたのではないかと思います。

### 1. 渡良瀬遊水地自然観察会～春の遊水地を歩こう～ 参加者26名

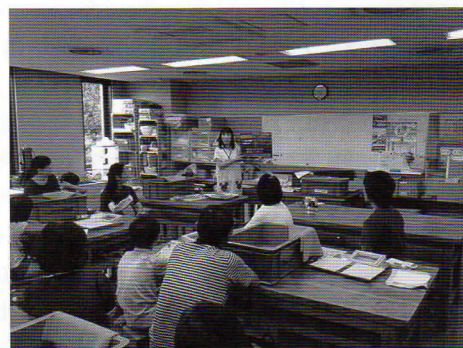
栃木県植物研究会、大和田真澄氏を講師に迎え、春の暖かな遊水地でエキサイゼリやトネハナヤスリなどの貴重な植物を観察しました。



「渡良瀬遊水地自然観察会～春の遊水地を歩こう～」

### 2. ヨシ紙すきでハガキを作ろう 参加者25名

渡良瀬遊水地に植生するヨシを乾燥させ粉末にした物と牛乳パックを利用して手すきハガキを作りました。



「ヨシ紙すきでハガキを作ろう」

### 3. 歴史講演会「近世・近代における栃木県の大洪水」 参加者23名

元栃木県歴史文化研究会常任委員長の犬嶽浩良氏に、栃木県や小山市における水害と治水の歴史についてお話いただきました。

### 4. 第69回企画展

#### 「古代の製鉄遺跡群-渡良瀬遊水地に刻まれた歴史を探る」

#### ①記念講演会 参加者48名

##### 「奈良・平安時代の製鉄関連遺跡-栃木県の調査事例を中心に-」

とちぎ未来づくり財団埋蔵文化センター整理課長の津野仁氏に、栃木県を中心に東日本などの古代の製鉄遺跡の調査事例を紹介していただきました。

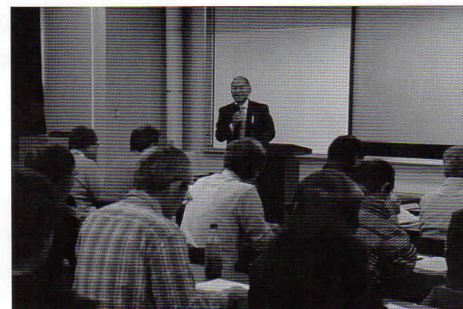
#### ②企画展関係史跡見学会 参加者56名

川戸台遺跡（古河市）、金山遺跡（小山市）、結城廃寺（結城市）などの遺跡や下野・下総国境地帯の特徴を車窓から見学しました。

#### ③記念講演会 参加者43名

##### 「征夷事業と坂東-川戸台遺跡の発見から-」

茨城大学非常勤講師、内山俊身氏に、川戸台遺跡の発見から、平安時代の征夷事業について解説していただきました。

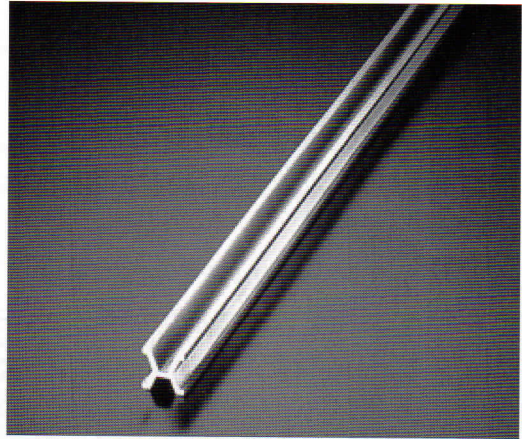


記念講演会「征夷事業と坂東-川戸台遺跡の発見から-」

## 科学の豆知識

### 「長さの基準は？」

昔のヨーロッパでは、王様の体が基準でした。ある国では「王様の顔の中心から伸ばした手の先までが1ヤード」と決められていたことも、でも王様が代わると1ヤードも変わってしまいます。それじゃ変わらないものにすればいいということで、地球を基準にしました。「地球の円周4000万分の1」を1メートルの定義としましたが、それでも各国の測量計量数値にバラつきがでました。そこで、白銀製の「国際メートル原器」を

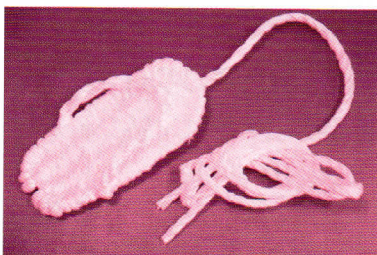


メートル原器 産業技術総合研究所所蔵

ところで、金属製の標準器では、気温による金属の膨張、メモリの微妙な誤差などで、どうしても不正確になることが判明。そこで1960年「クリプトン86原子が出す光の波長を基準にする」と改正したのです。金属標準器より精度はあがりましたが、それでも100万分の1の誤差がでたのです。各国の学者から「現代の英知で不変の基準を定義に！」という声があがりました。そして1987年、ようやく国際度量衡総会において、「1メートルは、光りが真空中を1秒の2億9979万2458分の1の時間に進む距離」と定義されたのです。

## 今年は材料が違います

### 後期講座「ぞうりを作ろう」実施報告



昨年まで実施していた「わらぞうり作り」を、今年度は材料をビニールヒモに替えて行いました。藁はなかなか手に入らないため、身近にある材料を使ったぞうり作りを教えてほしいという声がありました。今年のはじめて行った講座です。講師はわらぞうり作りでもお世話になっていた市内在住の関正さんをお願いしました。小学生から一般の方

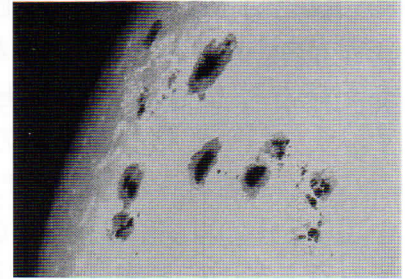
まで、募集人数を上回る21名が参加して、わらじ編み台を使った昔ながらのぞうり編みを体験しました。ビニールヒモは藁に比べると味気ないことは否めませんが、扱いがしやすく、伝統的なぞうり編みを手軽に体験していただくにはとてもよい機会となったようです。参加者の皆さんも楽しみながらぞうり作りに没頭し、2時間30分程でオリジナルのぞうりを完成させていました。



## 平成30年度前期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場で太陽観測を行い、夜は生井公民館で季節ごとに見られる星座や星の観測を行います。

今年の4月～8月の夜空の見どころは、「木星」「土星」「金星」「火星」です。それぞれ見応えのある惑星ですが、7月～8月にかけては、この4惑星のうち3惑星が一度に見ることができるようになります。また、アルビレオ（はくちょう座）、コルカロリ（りょうけん座）、ラスアルゲティ（ヘルクレス座）などの美しく輝く二重星も見逃せません。特に、はくちょう座の「アルビレオ」は、黄色と青色の二重星で、あまりの美しさに「わぁ！」との歓声間違いなしです。また、星座としては、「しし座」「おとめ座」「はくちょう座」「夏の大三角」「さそり座」などが夜空に大きく現れます。ぜひ多くの方々に見に来ていただきたいと思います。月に一度の夜のひととき、どうぞご家族で夜空を眺めてみませんか。



展望会の日の11時から12時30分には、博物館駐車場で「太陽観測会」を実施しています。写真は、太陽の黒点です。

### コラム 小山の歴史雑話

## 宗像三女神

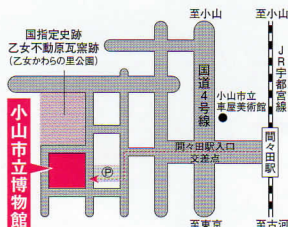
係長 学芸員 佐久間 弘行

小山市寒川の胸形神社は、平安時代に記された『延喜式』にその名が見えます。（網戸の網戸神社とする説も）祀られているのは「宗像三女神」で、もとは九州の玄界灘を臨み、大陸や朝鮮半島への航海安全守護の神として、大和朝廷からも敬われました。海との関わりが深い九州の神が、なぜ遠く離れた関東の内陸に鎮座しているのでしょうか。奈良時代、朝廷は東北地方の軍事制圧を進め、関東地方はその最前線基地として、物資を東北地方へ、ときに海上輸送しました。九州北部の水主（船員）が関東に動員されたことを示す史料もあり、宗像の神を祀る人々が、操船や造船などの指導・協力のため、関東にやってきたことを裏付けます。海上輸送には内陸の物資を沿岸部に集める必要があり、下野・下総国府（栃木市と千葉県市川市）を結ぶ思川水系は、特に重要であったと考えられます。

## 寄贈者芳名

次の方から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます（敬称略）

- 飯田 弘光（小山市） 古文書 一式
- 板橋 一清（小山市） 火縄銃・槍 各1点
- 森山 栄一郎（小山市） 麦のノゲとり他
- 須田 輝（小山市） 通い徳利他



発行年月日 平成30年3月15日  
 発行 小山市立博物館  
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)  
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247  
 H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/soshiki/59/>  
 印刷 株式会社ダイサン小山